
神様の異世界観察日記

KIA-Rho

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様の異世界観察日記

【Nコード】

N6742Y

【作者名】

K I A - R h o

【あらすじ】

恋姫十無双の二次創作になります。

始まり（前書き）

初投稿です。

拙い文章だと思いますがよろしくお願いいたします。

始まり

朝起きてドアを開けるとドアに矢が刺さっていた。

『っておいこれどーすんだよ、抜けねーし！？どうや
つて刺

したんだ？ しかも白い矢 羽って生 け贄に でも選 ばれ
まし

たー！みたいなの 殺人予告か？』

とかなんと かブチ ブチ言っ てると、いつ の間に かビ
ーチ にい
た。

『あー俺 は夢見 てるん だよなー、ここどこだよ、にしてもき
れいでいいとこだなー、よし夢ならそのうち覚めるし取 り敢
えず寝 よう。』

そーだ疲 れてん だよお れは、うん あそこ に見えるア
ロハシャ

ツ着た 胡散 臭いオッサ ンが 手をふってると こなん て
見え ない

し、こ こは 海でも ない。 あした はテ ストだ からも
う寝よ う。
うんそ れが いい。

見渡す 限り には人 がおら ず余計 にそ のオッサ ンは目
だっ てい

た。しかもこちらに歩いてきて話しかけられた。

『残念 なが らここ は夢と いうよ りは、天国 じゃな。
あとど こ
の神様 捕ま えて胡 散臭い じゃと?』

わあこの人自分のこと神様っていつてるよおい。

『へーそ うなん だ、も うちよっ と神々 しさ を身に付
けて から
神様な んて なのろーな。』

つかグ ラサ ンにビーサ ンに ビール、どー みても ハワイ
かぶ れ
の中年 じゃねーか。 似合い すぎだっ つの。

『神様 相手 に言い たいほ うだい じゃのー。 あとわ し
は中 年
じゃない わい!!こ うみえ てもピ チピチ の三 億歳じゃ
!』

『ウワー オ、三 億歳かー 大変だ な。で その ピチピチ
の三 億歳
の神様 は、俺にな んのよ うーです ?こっ ちみえて もい
ま寝る の
に忙し いん ですよ っど...。』

痛い奴 だな 。三億 歳でピ チピチ かよ (笑)

『まあ 取り 敢えず わしは 心ぐら い簡 単に読 めるぞ
?』

『え？ ……痛い 痛い頭 がわれ r…！！！！！！』

いつの間にかおれは片手で持ち上げられて指が頭にめり込み
そーになっていた。 と言うか人間 限界越える と冷静
になん
な。

手は なさ れると 痛みの あまり にう ずくまってしま
う。

『おあー、さん ずりバー が見え たきが した ぜ。』

『まあ取 り敢え ず色々 説明 してや ろう。』

とオッサンは話 始めた。

『ここ はお 前の心 の風景 が写し 出さ れている。天
国はひ とに
よって違 うから の、お 前さんにとって の天国はここ
のよう
じゃ。』

うわーお れ天国 来たんだ。 とか確 かにこ こに綺 麗な
女の人 が
いたら 完璧 だよな。とか 考えて いる とふと 疑問に
思う、 おれ
いつ死 んだ んだ？

『あー死んでおらんよ？ちよこつと居なかったことになつと
るだけじゃ。』

『は？』

『だからお前さんは、生まれておらんし、居なかつたことになつとる。じゃから家族の事とか色々考えんでよいぞ？』

『えーと、それ死ぬよりたちわりーじゃん？』

どーゆうことなんだ？生まれていないじゃあ俺はこれからどーなる！
徐々に危機感が溢れてくる。

『取り敢えずお前さんは、わしが適当にうった白羽の矢に選

ばれた。ちよこつと異世界にでも行ってきてくれ。…

……お

もにわしの自由研究の為に。』

『色々突っ込みたいことが多すぎてあれなんだが、自由研究

のために？ボソツととんでもないこと口走つたな。』

コイツ神様の癖に自由研究だど？つかそんだけのためにおれ

の人生 潰したのか？もしかして 神様 にとって三 億歳
って 小学
校レベル？ うわー…。

色々ありすぎて少し混乱 してくる。 まあそんな 状況
に思わず
俺は思 わず 言ってしまった。

『異世界で も何でもいって やるから、願 いを聞いて
くれ！』

『おお行つて くれる か、取 り敢えずこれ だし かられ
ずにす む
ない いぞ 、バッチコイ 』

『おいおい神 様しか れんのかよ…。 まあ いいや、まず
はん バ
キのよ うな 体を、 つぎに スパコ ンな みの記 憶力と
演算能 力
を、さ いご にエド ード ・エル リックの 能力を くれ
！ あ、あと
できれ ば容 姿端麗 に…。 』

うわーと 言ったや つは誰 だ！でてこい、俺だって恥ずかし
いこと言ってるのはわかってる。 だけど、誰 だって一 度は考
えるだ ろ？

あの主 人公 のよう になり たいって 。

こうやっ て俺の 第二の 人生 は始まった んだ 。

始まり（後書き）

お付き合いありがとうございます。

誤字脱字、アドバイスなど良ければお願いいたします！）
（
）

1 日目

あーわしじゃ神様じゃ、取り敢えず観察日記をつけようと送りこんだはいいものの、あやつは1日寝とるか、母親の乳を飲んどる。正直退屈じゃ。というわけであいつには、たまに試練を課すことにした、我ながらいいアイデアじゃと思う。

ちなみに今日の試練は、1日裸でおるじゃー!!
いやはや少し楽しみになってきたのう。

『神様ー、どこですかー? 神様ー!!!』

ちっミカエルの奴か、今日のぶんは録画しといて夜に見るかの。

『神様ー! 仕事を抜け出すのやめてくださいよー! どこですかー?』

あーおれおれ、おれだつて! え? 自己紹介がまだだつて?
確かに色々ありすぎて忘れてた。

俺の名前は、三谷勇治……でした。

なんと今の名前は魯肅、字は、子敬です。

あのファンキー親父(神様)のやろう赤ん坊にまで戻しやがった、正直大学生にもなつてオムツやおっぱいやにお世話になろうとは……。
あと神様試練がえげつないです……。

失敗したらばつゲームがきつい。この前なんか貂蝉とかいう、化け物に思いつきり玩ばれた。ヤバイおもいだすだけでも鳥肌が!!

『どーしたの勇治ちゃん? やっぱり裸は寒いんじゃない? 服着たら? 鳥肌たつてますよ?』

『だー！！！！（やめてもうバツゲームはいやだ、筋肉怖い！！）』

『どーしたのかしら、今日に限ってオムツ履かないし、変わった子ねー？まえも急に踊りだしたり、まだ歩けないのに家から出ていたり。きつと将来大物ね』

『あうー。（母上よ、理由があるのです！泣）』

あああともうお分かりかも知れませんが、三國志の舞台に来たようです。でも貂蟬があんなガチムチオエなんて聞いてません。

つかあのかおで何故三編み、何故ビキニ、何故世間はあれを許す！？色々不安になってきた今日この頃です。

まあとはいえ三國志の舞台にはちよつとワクワクしています。

やっぱり三國 双面白いしね、曹操とか一度あつてみたいよね。

とはいえ戦争とかは怖いし、俺が魯肅なら孫策に仕えるんだよなたしか。

どんな人なんだろう、取り敢えず家は有数の商家だし、能力もある、今一番怖いのは試練だけど…。貂蟬怖いや（泣）

あとは、真名つて習慣があるらしい。俺の真名は勇治と言うそうだ。正直ありがたい。なんでも生まれた日に夢で神様に、勇治にするがよいと言われたのだそうだ。たまには、ほんとのほんとにたまには良いことをする。でも他人の真名を勝手に呼んだら殺されても仕方ないのは、怖すぎる。

とりあえずもう少し動けるようになったら色々活動しよう。

1日目(後書き)

K I A - R h oです。さっそく何名かのかたには読んでいただけたようでありがたい話です。

なにぶんはじめてのことのでドキドキしっぱなしです。

生暖かく見守っていただけると幸いです。

ではまた次回に。

2 日目

あー久しぶりじゃの神様じゃ。

観察日記をつけるのも6年ぶりじゃ。勇治で遊んでるのをミカエルに見つかって、起こられるわ、勇治のいる世界を取り上げられるわ、大変じゃった。

まあ貂蟬と左慈のやつに毎週試練をだして、録画するように言っていたから、完璧じゃがの？

おっと驚かせるでないラファエルか、全くミカエルのやつは融通がきかんから困る。ラファエルもミカエルにはだまっとけよ？

『神様も悪趣味ですねー。はたからみたら幼児虐待ですよ？

まあその映像を後で見せてくれるなら考えます。』

ふっお主も悪よのう（笑）

『いえいえ神様ほどでは（笑）しかしいいんですか？あんまりミカエル怒らせると父上に言いつけられますよ？』

おっとそれは怖いの、さて仕事にいくかの。

俺です、勇治です。最近は試練にも貂蟬にも慣れてきました。

俺は俺の将来が心配です。しかも左慈とか言う奴が来てからはもう嫌がらせの毎日です。なんでも貂蟬いわくご主人様に色々邪魔されてイライラしてたらしく、だからといって俺に当たるなよ！？

バツゲームも手が込んできて、何処からともなく白装束のやつらがケツバットとかムエタイキックとかして帰ります。

某年末番組か！！！！

数年前から体を鍛え始めました、あと例の錬金術も練習してます。それと近所になんと甘寧が住んで居ました、

怪我して泣いていた子供がいたので、治療して家まで送ってあげたら、甘寧だと名乗るじゃないですか！しかも後日家に来て真名を預けてくれて、鍛えてるところを見られそれから一緒に鍛練しています。

彼はクールな中性的な顔で、なんとそんな顔なのに男らしくふんどしである。最近髪を伸ばしているらしく肩にかかりそうである。ますます女っぽく見えてきたのは秘密だ。

彼女のお父さんは最近呉に仕えたらしく、近々引越したそうです。最近この世界に疑問をいただきます。貂蟬は化け物だし、阿蘇阿蘇とかいう雑誌？みたいのをたまに母上は、読んでるし、なんかレースっぽい下着あるし。あれかな自重とかしなくていいのかな？バイクとか電球とか冷蔵庫とか作っていいのかな？ってことで最近秘密基地を作って工房みたいのを作っちゃいました。いやー秘密基地は男のロマンだよー！

『勇治！たんれんにいくぞー！』

『あつ思春、もうそんな時間？』

『何してたんだ？』

『ちょっと考え事してたんだよ。今日はどーする？』

『手合わせをしたあと、お前の秘密基地にいこう！』

『誰にも秘密だから秘密基地なのに。誰にもいってないよね！？』

あれがバレたら間違いなく大騒ぎになってしまう。いつもどおりそこそ秘密基地に行ってたら、後をつけられてしまったのだ。彼女には隠し事出来ません。

この体は、範馬 キの体のはずなのに思春の気配をあまり感じないのは何故だろう、今のところ手合わせしても負けないけど、たまに動きが見えないし。

『誰にも言うなって、言ったのは勇治だろ？あ、あれだ、ふ、二人だけの秘密なんだろう？』

そんなことを話していると何時も鍛練している場所に着いた。普通の鍛練なら適当な場所でもいいけど、秘密基地を知られた思春には錬金術もばれている。だから思春とは錬金術ありでの勝負だ。そこで人に見られない場所で特訓しているのだ。

『まあそれならいいけど、じゃ始めようか。』

正直錬成出来るので、俺は武器を選ぶ必要はない、必要ならいくらでもその辺から作ればいいのだ。

思春も俺がマルチレンジで戦えるのがわかると、一瞬の隙についての一撃必殺を極めてきた。ヒットアンドアウェイで気配を消してから、死角からの攻撃をしてくる。

対する俺は、普段薙刀のようなものを使ってるけど状況に応じて、弓や双剣などに錬成して使い分ける。

とそのとき後ろから微かな風切り音が聞こえた、とっさに薙刀を手甲に錬成し、剣をいなす。

そのまま拳を入れようとしますが、もうそこにはいない。

すぐに地面に手をあて何本もの柱を地面から生やす。

『あ!』

声のした方へ手甲を剣に錬成して突きつける。

『また私の負けだな。』

『錬金術が使えなかったら、俺がまけてたかもよ? 実際今のはヒヤツとしたし。』

『しかし勇治は錬金術が使えるんだ、そんな仮定は意味ない。最後までくらい勝ちたかったな。』

『別にもう一生会えない訳じゃないんだから。案外どっかでひよっこり会っさ。』

『そうだな、その時は私が勝つ!』

『明日行くんだよね、じゃあ基地に行くか。』

ちなみに思春は、おれが暇潰しに作ったピタゴラススイッチがおきに召したようで、基地に来るたび新作を作らされる。

あのビー玉かアッチコッチいった拳げ句最後にゴールして旗がたつのが、みていて楽しいらしい。今日は最後ということまで火薬や、回りの木まで使って盛大なのを作ったら、お前はここが秘密基地だと言うことを忘れてないかと殴られた。

一週間もかけた大作だったのに。

次の日俺は、町の外で思春が来るのを待っていた。町では皆が見送りでてるので、プレゼントを渡すのは恥ずかしかったからだ。

なんだかね三年ぐらいの付き合いだし、昨日別れるとき寂しそう

な顔していた気がしたのだ。それに間違いなく思春のおかげで強くなれた。そのお礼も兼ねている。

そんなことをつらつら考えていると、思春達が向こうからやって来た。

『思春！』

俺が呼ぶとうつむいてた思春がパツと顔を上げる。

『勇治！もう来ないのかと思ってたぞ！』

『まあなんだ：その色々世話になったし贈り物を渡そうと思ったけど、みんなの前では恥ずかしくてな。』

『なんだそうだったのか、ま、まああれだなせつかくくれると言うのだから貰っというてやる！』

思春は少し頬を染めながら言う。
こいつ男の癖にツンデレだよ……。しかも顔が中性てきだから妙に女っぽく見えることがある。
でも、まあこんなに嬉しそうにされると、贈り物を用意したかいがある。

『これだ、はい。まあ元気だな。また会おう。』

『っ、これは鈴？綺麗な音だな。』

『お前に似合うと思ってな。』

だって鈴の甘寧だしな。もってないとかっこつかないだろ？

『ふ、ふん、あ、ありがたく貰っというやる!』

うわー真正のツンデレだ!男なのがおしいぜ!!!!!

『じゃあな!』

こうして甘寧は旅立っていった。この時はあんな再会をするとは思ってもいなかった。

2日目（後書き）

どうもK I A - R h oです。

まあ原作をお知りの皆さんはもうわかっているとは思いますが、再会を想像してニヤニヤしてもらえたら、作者としてもとても嬉しい限りです。

また次回にとかいいながら速攻会いそうですが、一重に作者が暇なうちに一気に進めたいだけです。けしてニートなどではありません。もう今流行りの最先端に生きている職業なんだ、とか言い訳できなくなってきましたね。
ではまた次回に。

三日目（前書き）

どうもわしじゃ、神様じゃ、日記をつけててふと思ったんじゃが、あんまり本編と関係ないわしの独り言なぞ前書きでいいんじゃないかと…自分で書いててかなしくなるの。

まあ気を取り直してそうじゃ、こんなときは勇治に無茶ぶりをしようかの。うーん…よし今回は熊を狩ってとったどーと叫ぶにしようかの。

『あつ神様、（　　）してはいけない24時）ありがとうございます。なかなか面白いですねー。意外と左慈君いい趣味しています。』

おうラファエルか、そうじゃろう。特に一歳のときのベビーダンスや、水鏡塾（女子校）に一週間忍びこめなど、は自信作じゃ！

『確かにあれには笑いましたが、甘寧に男ものの下着を渡した回は笑いの神が彼に降りてましたよ。』

確かに奴はわしらをもってして未来の見えない奴じゃからの。甘寧の آپピールに三年も気づかん奴じゃ、これから先何をしてくれるか楽しみじゃ。

ん？ミカエルが探し始めた気がするそろそろもどるか。

『そうですね、こんな楽しみをあの堅物に奪われてはたまりません。

』
またの。

三回目

勇治です、とんでもない試練を出されました。

熊を狩ってこいと、今回は神様からなんでいやなことでもあつたんだろうか。しかもバツゲームは一晚金縛りにあつて貂蟬の抱き枕だそうです。…あれだなペテロだっけ『神よ何故私を見捨てたもう！』って叫んだ気持ち解るね。

まあそんなわけで今山に来てるのですよ。プラプラ熊がいないか探索中。

某狩りゲームの新米ハンターたちは、こんなに怖かったのか。

鳴き声に怯んでるんじゃないかねーよとか思ってたけど、今度やる時はもっと優しくするよ。

まあ思春がいなくなつて3ヶ月、一人で鍛練続けてるし、親の店に最近基地で作ったものを置いてもらつてる、それが大ヒットらしくおこずかいがすごい量貯まつてるらしい。

そのお金で武具一式と馬を買ってもらえた。ちなみに両親には、秘密を話した。その時は最悪捨てられるかもとか、頭が狂つたとか言われそうで、びくびくしていたが、母上が

『あなたがどんな事情があろうと私の子供よ！むしろ私達のもとにあなたを託した神様には感謝したいわ！』

と言いきられウルってきたのは内緒だ。

でも母上よあの神様には感謝しなくていいと思います。

え？何を並べたかつて？シャンプーとリンス、あとインスタントラーメンです。商売するなら消耗品を押さえたもん勝ちだよな

取り敢えずあんまりオーバーテクノロジーを使うと偉いひとに目をつけられそうだしね。

そんなこんなでプラプラと森を歩いていると、森の静寂を切り裂くように悲鳴が上がった。
あわてて声がした方へ走ると、桃色の髪をした女の子が熊に襲われそうになっていた。

『君走れそうか!?!』

取り敢えず熊に薙刀で切りつけつつ女の子に走りよる。

『え、ええ、大丈夫怪我とかはしてないわ。』

と思ったより落ち着いた声が帰ってきて思わず女の子のほうをみると、そこには宝石のような蒼い瞳を持つ綺麗な少女がいた。
立ち姿は気品をおび一目でいいところの娘だとわかる。
思わず見とれて動きが止まってしまふ。

『危ない!よそ見しないで!』

少女の声で我かえる、しかし見とれていた時間は致命的だった。

目の前に熊の手がせまる、なんとか薙刀を割り込ませることには成功するが、吹っ飛ばされる!しかも薙刀はおれてしまった。

『君早く逃げて!!なんでまだいるのさ!』

『でもあなた一人を置いて逃げれないわ!』

『君がいなければいくらでもやりようは有るんだ!』

『でも…!』

『でもじゃない! さっさと行って助けでも呼んできてくれ!』

『くっ! わかったわすぐに戻ってくるから待ってて!』

『ふう、やっと行ったか。おいくまさん、こっからが本番だ、行くぞ!』

とりあえずは試練があるからここで倒さなきゃな、まずは槍をたくさん作るか。

材料はそこらじゅうにある、木に地面から鉄分を集めて穂先にすればいい。

ほんとは地面からトゲでも生やせばいいんだが万が一のことを考えるとそれは出来ない。

『まあさっさと終わらせるか。』

両手をあわせて手を木に当てる、すると木から電気のようなものが走り槍へと変わってく。

『え?』

『は?』

後ろをふりかえるとさっきの少女が立っていて、もう二つ足音が少し遠くから近づいていた。

『もう来たのか、速いな! 今のは誰にも内緒でな!』

とりあえず見られたのはしょうがない、残りの二人が来るまでにくまさんを倒そう。

熊は錬成の光を見て様子を伺ってくれたのはラッキーだ。

そのまま槍を差しまくって止めをさせた。

その後残りの二人が来るまでにはもう少し余裕がありそだったので一本槍を残して他の槍を分解する。

『お願い今の他の人には黙ってて！』

少女に頼んでみてもなにも答えない。

走行しているうちに残りの二人が姿を現した。

『蓮華！大丈夫？その少年と熊はどこ？』

『蓮華様！』

一人は少女を少し大人にして気を強くしたような女の子、もう一人は黒髪に眼鏡をかけた賢そうな女の子だ。

『姉様、熊はその少年が倒しました。』

『へーやるわね あなた名前何て言うの？』

『魯肅、字は子敬です。』

『そう、私の名は孫策字は伯符、であなたが助けたのは私の妹孫権字は仲謀よろしくね』

これが俺と孫権との初の邂逅だった。

三日目（後書き）

ようやくメインヒロイン登場です。長かった。

書いてて楽しいですが、他人に読ませれる内容なのかドキドキしながら、投稿しています。

誤字脱字の指摘や、アドバイス、感想など書いてくれるととても嬉しいです。

拙い文章ですが目を通してくださった方々に感謝を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6742y/>

神様の異世界観察日記

2011年11月20日19時14分発行